

# 歴史民俗資料館だより

## かがみ 鏡

鏡は女性にとつて身だしなみを整えるうえで欠くことの出来ない日本古来の道具のひとつです。

鏡が日本に入ってくるようになったのは、弥生時代中期で朝鮮半島や中国の物が舶載されました。鏡の形は、最初は円鏡でしたが飛鳥・奈良時代に掛けてもたらされた唐鏡は、円形のほかに方形・八花形などの変化がみられます。

平安時代になると鏡は貴族の間に化粧道具として定着し、形は台座の上部に鏡を架けるようになりました。この時代、鏡の背に描かれている模様に変化が現れ、松・竹・梅・鳥などが典型的な模様となつて江戸時代まで受け継がれました。

江戸の中頃からは庶民の間にも鏡が実用品として普及し、銅と錫の合金製で表面を磨いた上に錫・アマルガム（錫と水銀の合金）を塗っていました。長く使うと曇つて映りが悪くなるので、鏡磨きが商いとして成り立ちました。江戸末期になるとガラスが登場し、明治末期にはこれが生産されるよう

になり、ガラスのついた一面鏡が普及し、昭和になると三面鏡が出るようになりました。

鏡は神鏡として神社に祭られるほかに、霊が宿るものであるとして、合わせ鏡の蓋をはずしたまま放置したり、鏡台の扉を締め忘れたり、掛布をしないでおくことを忌む風習が今でも根強く残っています。また、鏡面をみだりに露出



しておくことは慎むべきことであるとして、使用しないときは覆いをしておくことを「鏡を休ませる」といいます。鏡には邪悪を打ち負かす強い魔力があるとも観念されてきました。そのため、妊婦が腹帯の中に潜ませて、火事・葬礼その他の不幸に遭遇したときにも、胎児に災いが及ばないようにお守りとしたことはよく知られています。その他に現在でも、嫁入り道具を運び入れるとき、一番最初に鏡台を入れるところが多いですが、これも、嫁の身を守るために鏡に宿る霊力の発現を期待する習慣であると考えられます。

鏡の歴史は古く、形を変えながら現在まで使い続けられてきました。資料館では、江戸末期から明治時代の銅合金製の鏡や鏡と鏡台の移り変わりのパネルなどを展示しています。

**くんじょう 燻蒸（虫いぶし）消毒のご案内**  
資料館の、展示・収蔵品の燻蒸（虫いぶし）消毒を実施します。皆さんがお持ちの物品も同時に消毒希望されるかたはお申し込みください。  
**【月 日】**12月28日（火）  
**【場 所】**歴史民俗資料館  
**【対象物】**布・紙・木類  
1立方メートル未満の大きさで作製されたもの  
**【申込期限】**12月17日（金）  
**【搬 入】**12月27日（月）  
午前中  
**【搬 出】**1月4日（火）  
午前中  
**【料 金】**無 料  
消毒のため27日（月）は開館、28日（火）は休館とします。

笠松町歴史民俗資料館

〒501-6052 笠松町下本町87

☎388-0161 FAX388-0185

## 長良川流域市町村の『川文化ネット◇なごろ』交流コーナー 16



### 山県市 四国山香りの森公園香り会館

「四国山香りの森公園」は、全国でも珍しい「香り」をテーマにした公園で、30種3,000本のハーブや香木が植栽されています。公園内にある香り会館では香水の調合体験やリース作りができ、「香りの図書室」には、約200種類の香りの扇子が並び、扇子を扇ぐことにより、いろいろな香りを楽しむことができ、心身をリラックスさせてくれます。

**【アクセス】**岐阜バス「岐北病院前」より  
市営バス「ハーバス」  
大桑線に乗換え「四国山香りの森公園」下車

**【問合せ】**総合企画課 ☎0581・22・6824



四国山香りの森公園香り会館